

## 土木森林環境委員会会議録

日時 平成28年11月7日(月) 開会時間 午前11時40分  
閉会時間 午後1時38分

場所 委員会室棟 第4委員会室

委員出席者 委員長 早川 浩  
副委員長 山田 七穂  
委員 皆川 巖 渡辺 英機 白壁 賢一 塩澤 浩  
水岸 富美男 小越 智子

委員欠席者 なし

説明のため出席した者

森林環境部長 保坂 公敏 林務長 小島 健太郎  
森林環境部理事 前沢 喜直 森林環境部次長 笹本 稔  
森林環境部次長 石原 啓史 森林環境部技監 小林 均  
森林環境総務課長 市川 美季 森林整備課長 金子 景一  
県有林課長 山田 秋津 治山林道課長 鷹野 裕司  
  
県土整備部長 大久保 勝徳 県土整備部理事 垣下 禎裕  
県土整備部理事 三浦 市郎 県土整備部技監 水上 文明  
県土整備部技監 細川 淳 総括技術審査監 藤森 克也  
県土整備総務課長 中澤 和樹 道路整備課長 清水 敬一郎  
高速道路推進課長 丸山 裕司 道路管理課長 雨宮 一彦  
治水課長 鶴田 仁 砂防課長 武藤 敏正 都市計画課長 望月 一良  
下水道室長 久保田 一男

議題 (付託案件)

- ※第94号 平成28年度山梨県一般会計補正予算第1条第2項歳出中土木森林環境委員会関係のもの、第2条繰越明許費の補正中土木森林環境委員会関係のもの及び第3条債務負担行為の補正中土木森林環境委員会関係のもの
- ※第95号 平成28年度山梨県恩賜県有財産特別会計補正予算
- ※第96号 平成28年度山梨県流域下水道事業特別会計補正予算

審査の結果 付託案件については、いずれも原案のとおり可決すべきものと決定した。

審査の概要 まず、委員会の審査順序について、森林環境部・県土整備部の順に行うこととし、午前11時41分から午前11時56分まで森林環境部関係、休憩をはさみ午前11時59分から午後1時38分まで県土整備部関係の審査を行った。(午後0時23分から午後1時16分まで休憩をはさんだ)

主な質疑等 森林環境部関係

※第94号 平成28年度山梨県一般会計補正予算第1条第2項歳出中土木森林環境委員会関係のもの、第2条繰越明許費の補正中土木森林環境委員会関係のもの及び第3条債務負担行為の補正中土木森林環境委員会関係のもの

質疑 なし

討論 なし

採決 原案の通り可決すべきものと決定した。

※第95号 平成28年度山梨県恩賜県有財産特別会計補正予算

質疑 なし

討論 なし

採決 原案の通り可決すべきものと決定した。

主な質疑等 県土整備部関係

※第94号 平成28年度山梨県一般会計補正予算第1条第2項歳出中土木森林環境委員会関係のもの、第2条繰越明許費の補正中土木森林環境委員会関係のもの及び第3条債務負担行為の補正中土木森林環境委員会関係のもの

質疑

(砂防事業について)

小越委員 まず、砂防費についてお伺いします。この箇所づけ表によりましても、砂防関係のところは全部で11億余りなのですけれども、砂防堰堤がなかなか進まなくて、砂防防災とかが進まないというふうにずっと聞いているのですけれども、今回はどのぐらい予算要望箇所と要望金額を出して、それで採択は何カ所で幾らだったのかまず示してください。

中澤県土整備総務課長 小越委員の御質問について、まず今回の補正予算全般にかかわることですので私のほうから全体の説明をさせていただきたいと思います。今回、交付金事業ということでございまして、国からいろいろなメニューが示されます。それが21世紀のインフラ整備であったり防災であったり。砂防は防災のほうになってまいります。これについて、我々のほうが事業箇所のほうを国に要望を上げてまいります。交付金でございまして、国からは具体的にこの箇所に幾らという、そういう決定が来るわけではございませんで、こういったメニューについて交付金が出されるということですので、箇所づけ、採択箇所というようなものが交付金事業に関してはないという全体の説明をまず申し上げたいと思います。よろしくお願いたします。

武藤砂防課長 今回の補正予算につきましては、国に対しまして、国から示されました補正予算のテーマに基づいて提出しております。今回、砂防関係につきましては、国から近年発生災害に係る土砂災害対策の推進、火山地域における土砂災害対策、人命を守る効果の高い箇所における土砂災害対策の推進というテーマが示されました。これに基づきまして、県として緊急性や優先度、こういうものを判断した上で事業効果が高く、用地取得や関係機関との調整など、こういったものの見通しが立った事業箇所について国に要望したものであります。以上でございます。

(耐震補強について)

小越委員 山日新聞の10月27日付けの報道、それから9月議会でもお話ししましたが、トンネル、橋の点検が低調だということで、実施率が計画を下回るというふうになっております。それで、今回の補正予算におきまして橋梁の点検、橋の耐震補助について、いただきました箇所づけ表を見る限りでは、箇所づけ表の県土の3ページのところに、橋梁耐震補強工、2番、4番、5番、11番と、ほかというのものもあるかと思うのですけれども、橋の耐震補強は今回答弁があったのが6橋で、これでいきますと約6億円程度ということでしょうか。

雨宮道路管理課長 今回の補正予算にかかわる耐震補強及び補修につきましては、委員御指摘のとおり6億円、6橋であります。また、トンネルの補修につきまして2カ所、2,000万円ぐらいを予定をしておるところであります。以上です。

小越委員 そうしますと、先ほど本会議で知事の所信表明でもトンネルの耐震補強や橋梁の耐震補強に重点したというお話なのですけれども、6億と2,000万というと、額はかなり少ないと思うのですけれども、トンネル、橋の点検が低調ということで新聞にも書かれ、議会でも取り上げられているのですけれども、今年度のうちに実施すべきところが、この補正予算も含めて全部手当てできるのでしょうか。6カ所6億、2カ所2,000万ではとても足りないと思うんですけど、進捗状況はどうなるのでしょうか。

雨宮道路管理課長 トンネルの点検及び橋梁の点検については、数についてはちょっと総数は忘れてしまいましたけれども、県だけをとってみると、予定どおり3年間進んでいる状況であります。以上です。

小越委員 耐震補強6橋6億、トンネル2カ所2,000万というのは、進捗状況は達している、平成30年までに全部終わるということでしょうか。

雨宮道路管理課長 委員の御指摘のとおり、3年目になりますけれども、今のところ予定どおりであります。以上です。

小越委員 それで、私の知っている限り、ここの予算がなくて進んでいないというふうに全体の計画の中でも言っています。平成30年度、ここにね、県の担当者が下半期になることが多いと書いてあるのですけれども、達しているのかなという。もっとたくさん耐震補強せねばならないところがたくさんある割に、6橋というのは少ないと思うんです。

(河川管理施設について)

それから、もう一つ、先ほど河川のところで箇所づけ表の5番で、河川管理施設修繕というのがありましたけれども、特定構造物の改築事業費、今回2億6,000万あるのですけれども、これの進捗ぐあいがどのようになっているのでしょうか。

鶴田治水課長 特定構造物改築事業につきましては、河川管理施設の長寿命化計画に基づいて実施をしております。今回、補正で2億6,500万ということで計上させていただきますけれども、これについては平成29年の一部前倒しまで含めて補正を計上してございます。

(道路整備事業について)

小越委員 どのぐらい進んでいるのかちょっと答弁がないのですけれども。それからもう一つ、先ほど、県内道路ネットワークの基幹道路ということで、知事が先ほどの皆川議員の質問の中で、「リニアの駅へ30分程度で着けるように拡大する道路整備の予算を」というふうに言ったのですけれども、それは幾らぐらいで、どこの事業に入っているのでしょうか。

清水道路整備課長 お配りしてあります予定箇所表の中でいきますと、その中のリニアの30分圏域を拡大するためには、高速道路とか地域高規格道路を使うのが一番効果的と考えておりますので、インターチェンジ関連などに配分しています。この箇所表の中でいくと、1番の358号、2番の富士吉田西桂線の富士吉田のインターチェンジ、あと、下から2番目、国道300号だとか、13番目の割子切石線、これは中富インターチェンジ関連の事業ですけれども、こういうものに使いまして、21世紀型というところに書かせていただきました。その前のページの1ページ目にも国道橋りょう改築費ということで、新山梨環状道路の東部区間、ここに2億5,000万円ということで、全体で17億4,000万ほど計上させていただいております。

小越委員 リニア関係といいますか、リニアの加速整備という国の枠組の中でいって、今回のリニアの駅と30分で結ぶのを念頭にしながら17億という話ですけれども、片や橋梁耐震が8億、これで全部終わるといふような答弁で、本当にそうなのかと思うのですけれども、何か使い方が耐震補強のほうが少ない、道路のリニア関係が多いのはどうしてなのでしょう。本当にこの橋の耐震補強が、これで終わりで大丈夫なんですか。

雨宮道路管理課長 先ほど委員のほうから説明がありましたけれども、すみません、28年度末で20橋、全体31年末に予定しているのが626橋のうちの528橋、84.3%が終わる予定でおります。また、この補正予算を追加したことによりまして、6橋のうち4橋が終わります。そうすると、全体で28、補正予算を追加して85%が終わることになりまして、31年度までに残り94橋になると思うのですが、予定どおり進んでいるということでもあります。以上です。

小越委員 私は、その95%、85%はもっと前倒しをして、県民の人が皆心配しております道路とか橋の点検、それから橋梁のほうを最優先にするべきだと思っております。だけど、今回はリニアという国の枠組の補正予算でというのがありますが、そこにどうも目が行って、道路全体を見ますと、この箇所づけ表の緊急道路整備改築で道路関係だけで、ここで23億です。前のペー

ジ、2億5,500万。街路整備も入れますと、9ページですよ。道路改良を含めると30億円ぐらいに道路関係だけで行くわけです。必要な道路があるかもしれませんが、優先順位が違うんじゃないかと思うんです。

(経済効果について)

先ほど、経済効果があるというふうに本会議でも知事が答弁されたり、所信表明があったのですけれども、これによって経済効果というのは何を以てて経済効果があるというふうにはかれるのでしょうか。

中澤県土整備総務課長 まず、この道路のリニア関連のネットワークの話、それから防災関係の話でございますが、今回の国の枠組が大きく2つございます。交付金の種類も違っております。21世紀のインフラ整備、こちらが社会資本整備総合交付金という1つの交付金の体系であります。その中に新しい道路のネットワークのものが入っております。それから、防災関係は安全・安心防災対応の強化という国のメニューの中、防災安全交付金ということで、また別の交付金という事情があるということをご理解をいただきたいと考えております。それから、この社会的な経済効果という点に関しては、本会議でもお話が出ましたが、いわゆるストック効果、フロー効果、まずこういった社会整備が進む、耐震化が早く完成する、そういった効果といわゆるフロー効果の経済対策効果、この2つがあると考えております。よろしくお願いたします。

小越委員 その経済効果って、例えば金額ですとか雇用とか、そういう数字とかがあってあるのでしょうか。リニアのところに整備して、ストックがあるといっても、そのリニアのところにどのぐらい効果があるかというのがわからないと、目の前の工事だけすれば建設業者の仕事が増えるかもしれませんが、それが未来永劫どのぐらいその効果があるのかって検証をしておかないと、工事をすれば一時的には建設業者の仕事が増えるかもしれませんが、後々の経済効果のことまでどのように計算してあるのか、見込んであるのか、そこを示してください。

中澤県土整備総務課長 今回の補正予算に関して、いわゆるフロー効果の話に関して申しますと、答弁でもございましたとおり、投資額に対して1.5倍の経済波及効果が見込まれるということが数字としては言えると考えております。あとは、有形、無形、いろいろな社会資本整備が進むことによるストック効果というものが発現をするというふうに考えております。

討論

小越委員 この補正予算に反対いたします。先ほど、橋の耐震補強、トンネルのところは十分だと言いましたけれども、85%ということを見れば、そこをまず優先的にやるべきであります。経済効果がどのようになるかわからず、フローの問題、ストックの問題でも曖昧なまま進めるとなると、借金だけを残すような未来の投資というのはいかかなものか、優先順位がやはり公共事業は違っていると私思ひまして、私はここに反対いたします。

採決 原案の通り可決すべきものと決定した。

※第96号 平成28年度山梨県流域下水道事業特別会計補正予算

質疑

(下水道の耐震工事について)

小越委員 確認なんですけれども、たしか下水道の耐震化というふうに補正予算で説明があったんですけど、ここの4つの流域のうち、電気設備を除くと約1億2～3,000万円が下水道耐震化と思ってよろしいでしょうか。

久保田下水道室長 今回の安全・安心に係る補正といたしまして、富士北麓流域下水道、峡東流域下水道、釜無川流域下水道の3つの流域下水道につきまして補正予算をお願いしてございます。北麓流域下水道につきましては、管渠の長寿命化工事ということで、機能を補強するというふうな形になりまして、これは耐震工事ではありません。峡東流域下水道と釜無川流域下水道につきましては、2件とも管渠の耐震工事というふうな形になってございます。

小越委員 耐震工事というのは下水の中で全体どのぐらいあって、どのぐらい進んでいるのでしょうか。まだかなり残っているのでしょうか。

久保田下水道室長 下水道の管渠につきましては、耐震設計の基準が変わりました新しい時点で工事をさせていただいたものにつきましては、耐震機能が確保されております。基準が変わります前に施工させていただきました管渠につきましては、富士北麓流域下水道、それから峡東流域下水道、釜無川流域下水道とございますが、こちらにつきましては耐震補強を行っているというふうな状況でございます。耐震補強の必要な管渠の延長につきましては、全体で222キロほどございまして、そのうち約65%ぐらいなのなんですけれども、補強が終わっているというふうなこととなっております。今後、集中的に取り組むために各管渠等設計と交通機関、道路管理者との協議を行いながら予算を組みまして、早急に対策をしていくという予定となっております。以上です。

討論 なし

採決 原案の通り可決すべきものと決定した。

その他 本委員会が審査した事件に関する委員会報告書の作成及び委員長報告については委員長に委任された。

以 上

土木森林環境委員長 早川 浩